

市議会だより

発行 五條市議会 編集 議会広報編集委員会
平成26年(2014年)11月1日

GOJO

No.53



藤岡家住宅貴賓の間 外観(※国の登録有形文化財)

五條市議会第3回9月定例会及び 第2回臨時会の概要

平成26年第3回9月定例会は、9月1日に開会し、初日には、会期を24日までの24日間と決定し、市長から6月から9月までの市政の報告と本定例会に提出する議案の説明並びに教育委員会委員長から点検評価報告を受けました。

本定例会には、五條市手数料徴収条例の一部改正を始め、路線バス専用道五條西吉野線設置条例の廃止、平成26年度一般会計及び介護保険特別会計の補正予算、平成25年度各会計歳入歳出決算認定などの重要案件が市長から提案されました。

また、議員からは、「危険ドラッグ(脱法ハーブ)」の根絶に向けた総合的な対策の強化を求める意見書、平成27年度に上野公園市民プールの開園を求める決議などを提案して慎重な審議を行うとともに、5日と8日には9人の議員が一般質問を行い、9月22日に閉会しました。

第2回臨時会は、10月9日に開会して提出議案の説明を受け、議案審議を経て議決しました。

(8ページに関連記事)

目次

一般質問	2～6ページ
意見書・決議ほか	6ページ
表決結果と議決結果	7ページ
組合議会の報告ほか	8ページ

一般質問

定例会では、議案に関係なく市の一般事務について質問することができます。これを一般質問といい、以下質問順にその概要をまとめています。

山口耕司 議員

市民を胃がんから守る施策「ピロリ菌」除去に対する助成について

山口 『ピロリ菌』は胃の粘膜に炎症などを引き起こし、胃潰瘍や十二指腸潰瘍、胃がんなどの原因で、日本人の50歳以上の45%程度が感染しているといわれている。

現在、日本人のピロリ菌感染者数は3,500万人以上いるといわれており、毎年約12万人が胃がんと診断され約5万人が亡くなっている。がんによる死因は肺がんに次いで2位に位置する。

胃のもたれや不快感などの慢性胃炎であっても、呼吸検査などでピロリ菌の感染が確認され、内視鏡で慢性胃炎だと診断されれば、除菌のため薬を1週間ほど服用する。除菌が昨年2月21日より保険適用され、全額自己負担で1人当たり数万円掛かっていたのが、保険適用により6千円程度で済む。

兵庫県篠山市では、若い世代から胃がんのリスクを減らそうと、中学1年生にピロリ菌の抗体調査を実施。健康課と市教委が今年度

予算に検診代約60万円を計上。秋の定期健康診断で、尿検査の項目に市独自でピロリ菌の抗体検査を追加し結果は各家庭に郵送。陽性の疑いがあれば、指定病院で無料で精密検査が可能。治療が必要な場合は体格や年齢などを考慮し、

自費で内服薬による除菌を検討。また、20歳以上の方にも、胃がんリスク検診として一人当たり2千円を助成している。

羽曳野市や多くの市においてもピロリ菌除去に対して助成を行っており、本市においても助成の実施を求める。

すこやか市民部長 五條市の平成24年死亡統計では、肺がんに次いで胃がんが2位となっており、保健福祉センターにおける胃がん検診の平成25年度受診率は、6%で胃がん検診のみではなく、全てのがん検診受診率向上に取り組んでまいりたい。

市長 若い時期より自分の健康づくりを考えることは、大変重要であると考えます。ピロリ菌の検査や除菌の助成については、国の動向などを考慮し、検討してまいりたい。

平岡清司 議員

市長の政治姿勢について
市政に対する考え方と今後のまちづくりについて

平岡 市長は、就任時の所信表明で「行財政改革」「住んでよかつたまちづくり」「元気な五條市」の3つの決意を基本政策の柱として、「元気なまちづくり」に力強く取り組む姿勢を示された。

就任1年目、台風12号により大塔町で起こった土砂崩れでは1日も早い被災地の復旧・復興を目指し、持てる力を注ぎ、現在も取組を進めている。

まず、自ら給与20%、退職金50%をカット。入札や各種団体への補助金の見直しを積極的に進め、借金残高を就任より約52億2千万円削減し、子ども医療費無料化や南和救急体制の強化、地域公共交通の整備、子育て支援の充実、高齢者福祉の充実に取り組んでいる。

また、新消防庁舎の建設、し尿処理施設の建替え、みどり園の移転問題も厳しい財政状況の中、着実に事業を進めている。

県と取り組んできた自衛隊誘致も国の調査費が付き、「五條市を変えろ」という市政の推進に誠心誠意取り組んでいることに改めて

敬意を表する。

市長のこれまでの市政に対する考え方や今後の五條市のまちづくりについてお聞かせ願いたい。

市長 紀伊半島大水害で大塔町が甚大な被害を受けてから3年を迎え、復旧にも一定の成果を得、復興に向けて着実に歩みを進めている。

また、ごみ焼却場の移転問題や南和地域の医療制度の充実、新消防庁舎の建設と広域消防組合への移行など、困難な行政課題が前進したのも、議員各位と市民の皆様との御理解、御協力によるものと、厚く感謝しお礼申し上げます。

今年度、重点施策として4つの柱を掲げ、最後まで精一杯努力し、汗を流し、まい進してまいりたい。

平岡 来年4月に行われる市長選への出馬の考えをお伺いしたい。

市長 この3年余りは「行財政改革」を推し進め「住んでよかつたまちづくり」と「元気な五條市」を作るため、全身全霊を傾けてまいりましたがまだ道半ばであり、何となく今進めている施策を実現しなければならぬ。

今、五條市が抱えている課題、諸問題を解決し、住んでよかつたまちづくりに取り組む五條市の実現に向け、市民の皆様から引き続き負託をいただき、市政運営にあたらせていただきたいと思います。

窪 佳秀 議員

防災対策について

窪 8月9日台風11号接近に伴う地区への伝達方法について伺う。

危機管理監 携帯電話のエリアメールを通じて送信。大塔地区では防災行政無線を活用、市のホームページへの掲載、消防団による広報で伝達を行った。

窪 避難準備情報・避難勧告の発令に伴う教訓について伺う。

危機管理監 明るい間の早めの避難、正確な情報を収集し的確な判断をすることが重要である。

窪 避難した地区に空振りの理由を説明し今後にかさすように。

土砂災害警戒区域内における広報伝達の計画について伺う。

危機管理監 市の土砂災害警戒区域は809箇所指定されており防災行政無線の早期整備と市民への登録メール配信に力を注ぐ。

窪 防災行政無線整備設計業務委託の進捗について伺う。

危機管理監 現在、業務委託を締結。今後、基本構想を検討し実施設計業務を発注する。

窪 先進地を調査し、個別受信機、移動系防災行政無線の配信も含め、

実施設計業務にかさす必要がある。**危機管理監** 先進地事例や地区の意見も取り入れ移動系はデジタル化整備も視野に入れ検討する。

市長 早く正確な災害情報を市民全員に伝えることが必要である。また、正確な情報を得ることも重要である。市に見合った防災行政無線の整備を推進して行く。

市民プールの今後について

窪 市民プール休止に伴い幼児専用プールを建設し、市外の方も受入れ活性化につなげてはどうか。

都市整備部長 公園運営及び整備検討委員会を設置して幼児用プールの建設について検討を行う。

窪 市内小・中学校のプールを一般開放することについて伺う。

教育部長 各学校では、プール施設の安全管理と水質管理に努めなければならず、一般開放には課題があり慎重に対応する必要がある。**窪** 市営賀名生スイミングプールの利用状況について伺う。

教育部長 今年は8月4日から8月18日まで開放し、利用者は482人で昨年より100人増加した。**窪** 存在を知らない人のためにも学校等を通じ周知する必要がある。

吉田 正 議員

陸上自衛隊誘致について

吉田 議会運営委員会で自衛隊誘致に成功した阿南市を視察した。

現在、本市も防衛協会五條支部の発足等誘致活動を行っているが、本市における現状と今後の取組について尋ねる。

危機管理監 平成27年度基本構想業務検討経費約400万円が計上され引き続き県と連携していく。**吉田** 誘致条件について尋ねる。

危機管理監 自衛隊の展開基盤及び自衛隊二丁目に沿って考えている。

吉田 自衛隊本体に対する適地はもちろんだが、自衛隊員とその家族の生活基盤はいかがお考えか。

危機管理監 自衛隊の構想に沿った形で行っていく。

吉田 誘致部隊の規模及び部隊職種についてはいかがお考えか。

危機管理監 防衛省が考えることであるが、大きな部隊が来てくれることが望ましい。また、災害に即応できる部隊を考えている。

吉田 市民は自衛隊に様々なお考えを持っておられると思うがいかに対応していくのか。

危機管理監 地域の防災上の観点から市民の皆様を理解してもらえよう説明をしていく。

吉田 災害が起こった場合、自衛隊の救援活動は大事なところである。五條市民の御理解もいただき活発な誘致活動をお願いし、市長に尋ねる。視察先の阿南市が誘致を始めたのは合併前の旧那賀川町で、当時の町長は防衛省関係へ6

年間で50回以上陳情を行ったそうだが、市長もこれからの誘致活動に対しどのように臨まれるのか。

市長 県知事も連携を取り、より活発に進めていく。

吉田 月に一回は防衛庁へ陳情に行くような積極的かつ活発な継続しての取組をお願いする。



(陸上自衛隊徳島駐屯地(阿南市))

自衛隊駐屯地誘致特別委員会設置
平成26年9月22日の本会議において、自衛隊駐屯地誘致特別委員会が設置され、次の7名が委員に選任されました。

- | | |
|-------|-------|
| 委員長 | 吉田 正 |
| 副委員長 | 宗部 康寛 |
| 委員 | 益田 吉博 |
| 山口 耕司 | 窪 佳秀 |
| 牧野 雅一 | 平岡 清司 |

養田全康 議員

ふるさと納税について

養田 ふるさと納税の市別納税額で五條市は県内最下位で激減しているが、全国的には増加傾向にある。今後、広報活動や納税推進の取組をどうするのか。農作物や特産品、体験型のカヌー、ラフティング、吉野川祭りの升席や食肉加工施設ができるのでイノシシや鹿なども考えていただきたい。

市長公室長 五條市を知っていたくチャンスと捉え、いろいろな特産物、体験型や五條市に来訪いただけるような取組を考え来年度から導入できるように検討する。

防災・減災について

①災害時における市の体制について

養田 台風11号が接近し三重県に特別警報が出る中、会派議員3名で市役所庁舎に泊まり込み、出先機関を巡回し改善点が見えてきたが、どのような体制で臨んだのか。
危機管理監 3号動員で全職員が対応し初動体制から災害対策本部設置までに、5回の災害警戒体制部長会を開催した。

養田 3号動員が発動され、深夜1時〜3時に出先機関を回る中、

女性1人で待機していたり全員睡眠中で対応が甘い部署、情報が早期に入らない部署もあったようだ。いざと言う時に役に立たないようなことではいけない！しっかりと改善していただきたい。

②消防団との連携について

養田 消防団員が巡回や避難勧告発令地域で活動し、お世話になっているが、連携や備品等は適正に配備されているか。車両も旧車両を新しくする計画はあるか。また、消防団格納庫は現在何箇所あり古い建物は築何年位経っているか。
危機管理監 消防団長に災害対策本部会議に出席いただき連携を図った。格納庫は57箇所、一番古い建物で築93年。車両は消防団と調整し入替を検討する。

子供たちの安全確保について

養田 市内で不審者情報がある中で情報提供に地域差があり、改善をお願いしたが現在の取組と土日祝についてはどう考えるか。

教育部長 指摘いただき、保護者への連絡方法を見直した。各課への横断的な連絡をし保護者に確実に情報を伝えるため共通情報をメールで一斉送信する。土日祝については鋭意検討する。

岩本 孝 議員

人口減少が進行している中で今後の五條市の在り方について

岩本 「奈良県・市町村サミット」で「人口減少社会における市町村のあり方」の講演会に出席した。

人口減少の大きな要因は20〜39歳若年女性の減少と地方から大都市圏への若者の流出の2点ということであるが、日本創生会議の人口減少問題検討委員会の試算では「20〜30歳の女性」の将来推計人口での2040年の人口減少率は、県内12市で2番目に高いマイナス69.3%となっており消滅可能都市と予測されている。五條市の人口の現状について答弁願いたい。

市長公室長 合併時の平成17年9月末の住民基本台帳に基づく人口は38,601人。本年7月末では33,363人。約5,200人の人口減少となっている。

岩本 若い世代の人口流出を防ぐ施策については。

市長公室長 国が人口減少対策、地方創生の実現に向け「まち・ひと・しごと創生本部」の設置を決定、県も「奈良県地方創生本部」を設置した。本市も国・県の動向に注視しながら同様の組織を設置

し、全庁をあげて進めたい。
産業環境部長 若者の定住および市内雇用の支援として「五條市就職応援フェア」の開催。市外からの新規立地企業や市内で増設・新たな設備機器の導入を検討している企業に対し、「五條市企業立地の促進及び雇用の拡大に関する条例」を運用した奨励金制度の周知・活用を促すことで雇用促進に取り組んでいる。

（五條市企業立地の促進及び雇用の拡大に関する条例について質問。企業立地・雇用促進奨励金について答弁あり）

岩本 魅力あるまちづくりについて答弁願いたい。

市長公室長 地域に集い暮らす人々と行政が一体となり、まちづくりを進めて行くことが必要不可欠であると考えます。

岩本 住んでよかったと思えるまちづくりに対する市長の思いをお聞かせ願いたい。

市長 時代の変革に対応し、地域住民のニーズを的確に把握できる職員の意識改革への取組など、今後、市民の暮らしを守るといふ重大な責務を実感しながら、安心して暮らせる活力あふれるまちづくりを進めていく。